

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市南吉成児童館	
2 指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団	
3 指定期間	平成31年4月1日～令和6年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和4年度 20,687人(前年度比 115.7%) 令和3年度 17,873人 令和2年度 15,428人	
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業	
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 35,309千円 (36,335千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者懇談会を実施。	

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、子育て支援クラブをはじめとする地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》
<p>「生き生きと活躍する児童を育み、豊かな子育ての輪を広げる児童館」を運営目標に取り組みました。</p> <p>児童健全育成事業の「児童館子どもまつり」では、地域の方や大学生とコーナー遊びをとおして、異年齢交流を深めることができました。子どもたちの活躍する機会となるよう、小中学生有志による実行委員会を設置し、コーナーの遊びを企画運営することで、自主的に祭りを盛り上げ、最後まで責任を持ちやりきる姿を見ることができました。</p> <p>子育て家庭支援事業の「わくわく遊具day」は、大型遊具を多く準備することで、体を動かしながら親子でふれあい、保護者同士会話を楽しめる時間になり、友達づくりや日頃の悩み等を共有し合える場になっています。</p> <p>地域交流推進事業は、「みんななかよしふれあい茶話会」に参加した児童や幼児親子が社会福祉協議会の方と声をかけ合いながら、和やかな雰囲気と一緒に工作を楽しむ場面もありました。昔あそびや製作活動をとおして世代をこえ交流が深まりました。地域の自然を活用する「新緑の権現森ハイキング」では、権現森研修会の方から花木の話の聞いたり、親子でふれあい、会話を楽しみながら地域を知る良い機会になりました。</p> <p>放課後児童健全育成事業の「みんなで楽しもう忘年会」や「児童クラブお別れ会」では、児童に司会進行役を担ってもらい、自分の得意な遊びを披露する場を設けたことで、行事への参加意欲が高まり、普段の遊びへの積極的な参加につながる良い機会となりました。</p> <p>今後も児童が活躍できる機会を多く設け、様々なことへ意欲的に参加する姿が見られるよう事業を企画していきます。また、乳幼児親子が交流できる環境を整え、友達づくりや気軽に悩みを相談できる雰囲気づくりを心掛けながら、子育て支援の輪を広げる取り組みを進めてまいります。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>児童健全育成事業においては、平日17時から中高生タイムを設定し、遊戯室を開放して中学生の来館促進に努めた。バスケットボールや卓球に訪れ、日常的に児童クラブの小学生と交流している。また「児童館子どもまつり」では小中学生が実行委員として大学生ボランティアや地域の方々と共に企画運営に主体的に関わり、行事を通して達成感や自己肯定感を得る機会となった。また実行委員の活動をきっかけに中学生が来館し、児童クラブの児童と遊んだり勉強を見てあげる等、小中学生が日常的に交流している。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、乳幼児親子に様々な体験、遊びを提供している。季節の移り変わりに触れながら、子育て支援クラブや講師の先生を招いて夏野菜の苗植えや感覚遊び、音楽遊び等を行っている。多様なプログラムで乳幼児親子に豊かな遊びを提供し、参加者同士の交流の場となり利用者が増加しており、地域の子育て支援拠点としての役割を担っている。</p> <p>地域交流推進事業においては、地域の人材、自然環境を活用して小学生親子を対象に「新緑の権現森ハイキング」が開催され、準絶滅危惧種に指定されている山野草はじめ珍しい草花、木々に触れる機会を提供し、地域に根付いた活動を通して育つ環境作りに努めている。また恒例の「おでかけ児童館」では児童クラブの子ども達が近隣の保育園に出向き、特技の披露や遊びを通して園児と交流した。この取り組みは子ども達の遊びの意欲を引き出し自己肯定感を育んだ。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、本館とサテライトの児童が夕方、遊戯室での運動遊びを通して異年齢交流している。特に「よさこい」は6年生が低学年に伝授するという目的を持ち主体的な活動となっていた。また親子交流会に代わる「親子で凧づくり」においては、父親の来館促進と事業の取り組みを知ってもらう場となり、参加者から物作りを通じた親子の触れ合いと保護者同士の交流で好評を得るとともに行事への参加を通して児童クラブの取り組みを知ってもらう良い機会となった。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課): ども若者局ども若者支援部児童クラブ事業推進課